

保証内容&取扱説明書



株式会社 和工

このたびはアナログウォッチ時計をお買い上げ賜りありがとうございます。お選び頂きましたこのウォッチは優れた技術と独自のセンスにより個性豊かに仕上げられたアナログ式高級腕時計です。どうぞ末永くご愛用下さいませ。

※使用前には保証書及び取扱説明書をよく読んで正しくご使用下さいませ様、お願い致します。

お客様への注意

1. お買い上げいただいた腕時計は、本体、金属バンド又は皮革バンドが直接肌に密着しますので、場合によっては金属アレルギーや皮膚のかぶれを起こすことがあります。その時はただちに使用をおやめ下さい。
2. 時計をかけた腕で身体をこすりたりすると身体に傷をつける場合がありますのでこのような行為はおやめ下さい。
3. サウナ風呂など高温の場所で使用すると火傷をすることがありますので使用をひかえて下さい。
4. 時計をしたまま激しい運動をしますと、それが原因で時計が破損して怪我をする場合がありますので運動時の使用はおやめ下さい。
5. 万一、時計を落下して破損した場合は速やかに、破損片をかつぎつけて下さい。お子様が部品を飲みこんだり、思わぬ怪我をする場合があります。
6. 汗、及びほこり等に依り衣服の袖口が汚れる事があります。(時計のお手入れ方法を参照下さい。)
7. 強化防水時計は、潜水用ではありませんので潜水時の使用はおやめ下さい。
8. 時計を改造して使用した場合の怪我等については、保証をしかねますので予めご了承願います。
9. 誤った使用によって怪我をした場合の保証はしかねますので予めご了承願います。
10. 時計の時間遅れの原因となりますので、健康器具(磁気)等との併用は避け下さい。

保証規定

※保証期間内に正常なご使用状態で、万一故障した場合には無料で修理・調整いたします。

※修理・調整は本保証書を提示の上、原則としてお買い上げ店にご持参の上ご依頼下さい。

※つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理になります。

- (イ) 誤ったご使用や、不注意による故障または損傷。
- (ロ) 不適当な修理や、改造による故障または損傷。
- (ハ) 火災、水害または地震など、天災地変による故障または損傷。
- (ニ) ご使用中に生じた外観上の変化(ケース、ガラス、バンドの小キズなど)
- (ホ) 本保証書の字句を書き換えられた場合。
- (ヘ) 本保証書のご提示がない場合。

※革バンド・合成樹脂バンド及び電池などの消耗品は保証の対象外になります。

※修理のとき、ケース、文字盤、針、ガラス、バンドなどは、一部代替部品を使用させていただきますことでもありますのでご了承下さい。

※この保証書は保証規定を明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。

※当社宛郵送又は輸送の際の料金は、お客様にご負担願います。

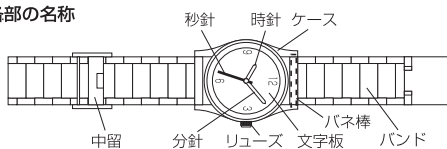
(注) 誤った使用とは非防水時計を水中に入れた場合、高温または低温のところに時計を置く場合などの使用状態をいいます。

■サービスセンター

関東:埼玉県戸田市筈目北町12-11

〒335-0033 TEL.048(421)9831(代)

①時計各部の名称



②アナログ(針式)ウォッチ時計の仕様

1. 機能: 二針、三針、三針・日付、三針・日・曜日付き
1. 時間精度: ±20秒/月(常温における携帯精度)
1. 連針方式: 1秒ステップ連針(二針を除く)
1. 水晶振動数: 32,768Hz(Hzは一秒間の振動数)
1. 表示方式: ダイアルと針によるアナログ式
1. 使用電池: 酸化銀電池、リチウム電池
1. 電池寿命: 新しい電池組込後約2年(酸化銀電池)、約10年(リチウム電池)
※但し、ご使用中の時計にかかる負荷が環境及び使用状況等によって個々に異なりますので電池交換後、必ずしも2年〜10年を保証するものではありません。
(裏面の⑦使用上の注意事項1〜4参照)

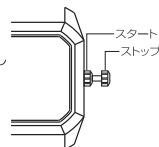
③アナログウォッチに組み込まれているバッテリー(電池)について

1. お買い上げ頂いた、アナログウォッチに組み込まれているバッテリーは、時計の機能や性能をチェックするためのモニター用です。
2. このバッテリーは、当社より出荷される時、組み込まれておりますので、お買い上げの期間までにある程度、消耗しています。
3. このバッテリーは、所定の期間の電池寿命がないことがあります。
4. 新しいバッテリーに交換するときは、保証期間内でありましても、有料になりますので、よろしくお願いいたします。

④アナログウォッチのご使用方法について

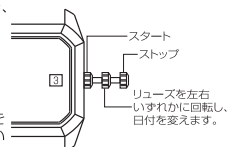
●二針・三針、時刻の合わせかた

1. リューズを1段引くとストップし、時刻合わせをして下さい。
2. リューズを押し込むとスタートします。



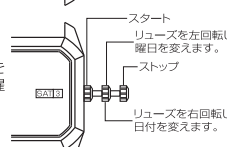
●三針・日付の合わせかた

リューズを1段引いた状態で行います。(この状態では、時計は動いていません。) 次に、リューズを左、右いずれかに回転させて日付を変えます。
※ムーブメントによって、左回転で日付を変えるものと、右回転で日付を変えるものがあります。



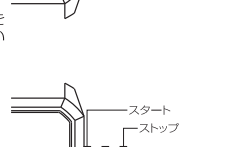
・時刻の合わせかた(針の合わせかた)

時刻合わせは、リューズを2段引いた状態で、針を左、右いずれかに回転して合わせます。(2段引いた状態では、時計はストップします。)



・三針・日付・曜日の合わせかた

リューズを1段引いた状態で行います。リューズを右回転させると日付が変わり、左回転させると、曜日が変わります。



●三針・ダイバー(ネジロック式)日付の合わせかた

リューズはネジ式になっており左回転させゆるめ、1段引いた状態で行い(この状態では、時計は動いています。) 次にリューズを左右いずれかに回転させて日付を変えます。操作後リューズを締め忘れると防水不良の原因となります。



自動巻き機械式時計について

キャリバー	振動数	石数	精度日差	持続時間(全巻上げ)
3針	21600振動/時間	21石	±60秒	180°(半回転)で70回以上 約33時間

※精度日差は常温において、ぜんまいを全巻にし、時計を上向きで静置した状態で、24時間経過した時の日差です。

※自動巻機械時計の特性上、ご使用になる条件(携帯時間・腕の動き・ぜんまいの巻き上げ具合等)によっては、携帯精度の範囲を超える場合があります。

※製品仕様は改良のため予告なく、変更する事があります。

●自動巻機械式時計について

自動巻機械式時計は腕に付けた状態で通常の腕の動きでゼンマイを自然に巻くことが出来ます。

止まっている時計をご使用になる場合は、リューズを右方向に40〜50回転以上回して下さい。

連針を開始しますので秒針が動き始めたら時刻を合わせてください。
ゼンマイが十分に巻き上げられた状態で約40時間動き続けます。
ゼンマイの巻き上げが不足すると進み遅れの原因になりますので、精度を保つために1日8時間以上携帯することをおすすめします。

●各部位名称と働き

①リューズを右図(0)の位置で時計回り(右回転)方向へ回しますとゼンマイの手動巻き上げができます。

※ゼンマイを手動で巻き上げる場合は40〜50回巻き上げてからご使用下さい。

②リューズを1段引き右図(1)の位置で時刻合わせができます。

③時刻の合わせかた
※リューズを(1)の位置まで引き出します。
(秒針は止まりません)

※リューズを左回転に回し時刻を合わせてください。
※時刻を合わせたらリューズを通常の位置(0)まで押し込んで時刻合わせの完了となります。

◆故障につながる操作

①時刻合わせのときの針の逆回転

②自動巻機械式時計のゼンマイを巻き上げるために、時計を激しく振る

③濡れた手で時刻合わせをする。*時計内部に水が入る恐れがあります。

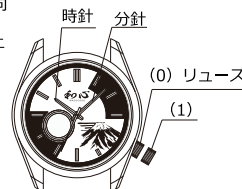
④磁気の発生している物に時計を近づける。

⑤リューズの通常の位置への戻し忘れ

⑥強い衝撃や振動

⑦お風呂やシャワーに時計を装着したまま入る。

*防水性能の範囲でも、お湯の影響を受け故障する可能性が高くなります。



⑤バンドサイズ調整方法について

1.スライドタイプ



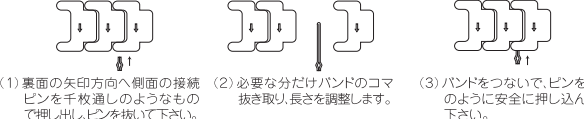
左図のように中板の穴の中にドライバーなどを差し込み、中板を開けます。サイズ調整が容易にできます。
なおスライダーの位置を決める時は、バンド裏側のミジ又は谷にスライダーの凸部を確実に入る位置に合わせて下さい

2.ピンタイプA



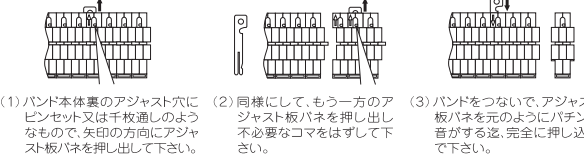
(1)裏面の矢印方向へ側面の接続ピンを千枚通しのようなもので押し出し、ピンを抜いて下さい。(2)必要な分だけバンドのコマを抜き取り、長さを調整します。(3)バンドをつないで、ピンを元のように安全に押し込んで下さい。

3.ピンタイプB



(1)裏面の矢印方向へ側面の接続ピンを千枚通しのようなもので押し出し、ピンを抜いて下さい。(2)必要な分だけバンドのコマを抜き取り、長さを調整します。(3)バンドをつないで、ピンを元のように安全に押し込んで下さい。

4.板バネタイプ



(1)バンド本体裏のアジャスト穴にピンセット又は千枚通しのようなもので、矢印の方向にアジャスト板バネを押し出して下さい。(2)同様にして、もう一方のアジャスト板バネを押し出し、必要ならコマをはずして下さい。(3)バンドをつないで、アジャスト板バネを元のようにパチンと音がする迄、完全に押し込んで下さい。

5.三つ折れタイプ



上面サイドのアジャスト穴にピン等を差し込んで、なかのバネ棒を移動させバンドの長さを調整して下さい。

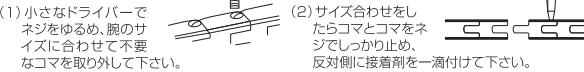
6.Xタイプ



コマのはずし方
折り曲げてある切り込みのすき間より脱着可能です。

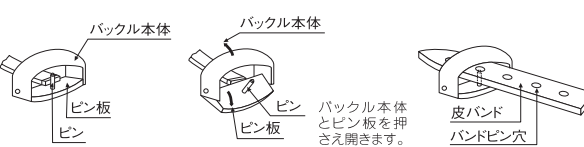
コマのはずし方
裏コマを表コマの大きい穴で移動する事によって簡単に取れます。

7.ネジタイプ



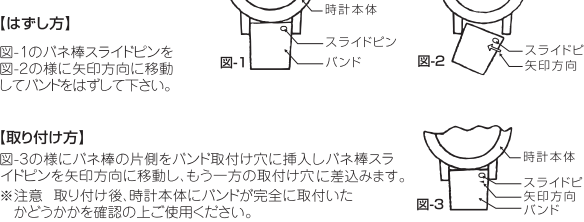
(1)小さなドライバーでネジをゆるめ、腕のサイズに合わせなくても必要ならコマを取り外して下さい。(2)サイズ合わせをしたらコマとコマをネジでしっかりと固定し、反対側に接着剤を一滴付けて下さい。

8.三つ折れバックルタイプ



バックル本体とピン板が開いたら革バンドをその中に入れてお好みの長さに合わせてバンドの穴にピンを差し込みピン板を元の位置にもどしてしっかりと固定して下さい。

9.ワンタッチタイプ



【はずし方】
図-1のパネ棒スライドピンを
図-2の様に矢印方向に移動してバンドをはずして下さい。

【取り付け方】
図-3の様にパネ棒の片側をバンド取付け穴に挿入しパネ棒スライドピンを矢印方向に移動し、もう一方の取付け穴に差込みます。
※注意 取り付け後、時計本体にバンドが完全に取付いたかどうかを確認の上ご使用ください。

⑥防水性について

アナログウォッチの防水表示は強化防水(5気圧以上)と日常生活防水(1気圧～3気圧)の2種類があります。

①強化防水は裏蓋にWATER RESISTANTと文字板が裏蓋に気圧表示をしてあります。
(例:5気圧・50M、10気圧・100M、20気圧・200M)

②日常生活防水は下図を参照願います。
※時計の内部には多少の湿気がありますので、外気が時計内部の温度より低いときにはガラス面がくもる場合があります。くもりが一時的な場合には内部に支障はありませんが、長時間消えない場合は、お買い上げ店、又はサービスセンターにご相談下さい。

用途は下図参照の事

タラ	使用条件	●一般的にかかる水滴(洗顔・雨等)				●水泳、ヨット等の水上スポーツ、漁業等の水仕事、水道の蛇口等強い水流				●酸素ボンベを使用しないスキューバダイビング				●水中でのリュース操作並びに水滴の付いたままでのリュース操作			
		○				○				○				○			
強化防水20～30気圧		○				○				○				×			
強化防水10気圧		○				○				×				×			
強化防水5気圧		○				×				×				×			
日常生活防水		○				×				×				×			
非防水		×				×				×				×			

⑦使用上の注意事項

1.温度について

直射日光下や高温になるところ又、寒い所へ長時間置かないで下さい。
故障の原因(遅れ・進み)や電池寿命が短くなりますのでご注意ください。
※-5℃以下+50℃以上の温度下で長時間放置しますと、とまりの原因となります。腕につければもとの精度にもどります。
(この場合は時刻を修正して下さい。)

2.ショックについて

軽いスポーツによる影響はありませんが激しいスポーツの場合は取外して下さい。
※床や道路などへ落す激しいショックは与えないで下さい。

3.磁気について

家庭用電気製品程度の磁気には心配ありませんが磁石や磁石付きの器具(健康器具・マーシャンプ)などには近づけないで下さい。
※磁気の影響で一時的な進み遅れが生じる事があります。磁気から遠ざけるともとの精度で動きます。この場合時刻を修正して下さい。

4.振動について

オーバイ・削岩機・チェーンソーなどの強い振動が加えられた場合 一時的に遅れる原因となります。

5.化学薬品・ガス等について

ガス・水銀・化学薬品など(シンナー、ガソリン各種溶剤又それらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品等)が触れるとケース、バンド、文字板の変色が生じます。

6.海水に入ったときのお手入れ方法

ケースについた海水を真水でよく洗い落してサビが出ない様にして下さい。又、洗った後は柔らかい布等でよく水分を拭き取って下さい。おこたりますと、ケース・バンドにサビが発生し腐食の原因となります。

⑧時計のお手入れ方法

●ケース・バンド

ケース・バンドは肌膚類と同様に直接肌に接していますので、汚れたままにしておきますと、衣服の袖口を汚したり、皮膚の弱い方は、かぶれたりします。汚れや水分は柔らかい吸湿性のよい布で拭きとり、常に清潔にしてご使用 ください。また汗をかきやすい季節には、バンドを少しゆるめるに通気性をよくして下さい。

●金属バンド

時々やわらかい歯ブラシ等を使い石けん水で部分洗いなどをして下さい。(汚れたままにしておきますと、サビたり腐食してしまいます。)
※非防水時計は時計本体に水がかからないようにご注意下さい。

●皮革バンド

水分、汗、汚れなどが大敵です。吸湿性のよい布で拭いて、時計をはすしたあとは、風通しの良い所においてください。皮膚がかぶれる原因となります。

●点検のおすすめ

電池交換時または2～3年に1度の点検をおすすめします。保油状態・漏液の有無・汗や水分侵入の有無などをお買い上げ店または、販売店で点検してもらって下さい。
点検の結果によっては、分解掃除を必要とする場合があります。
※そのときにパッキンやパネ棒の交換を御依頼下さい。
※部品交換のときは「純正部品」とご指定下さい。